

# 令和7年度全国学力・学習状況調査 新篠津村内の状況及び今後の改善方策 小学校数:1校、児童数:24人 中学校数1校、生徒数 15人

## 1 全国学力・学習状況調査結果の概要

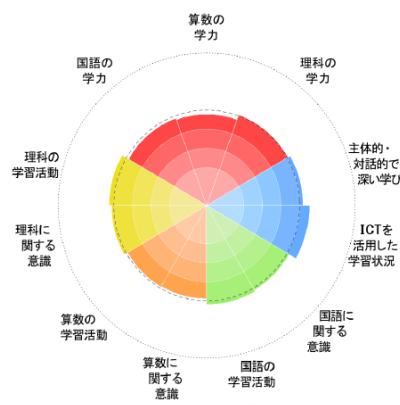
全国及び全道の平均正答率と比較して、右の5段階で評価する。

	小 学 校			中 学 校		
	国 語	算 数	理 科	国 語	数 学	理 科
全道比較	やや高い	同 様	やや高い	同 様	やや低い	やや低い
全国比較	同 様	やや低い	やや高い	同 様	やや低い	やや低い

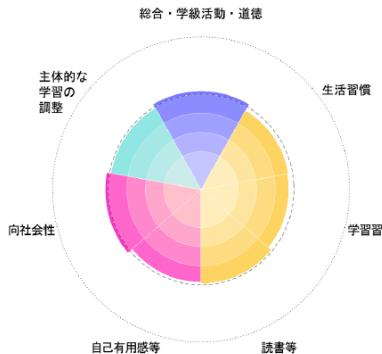
- ・9ポイント以上「高い」
- ・3ポイント以上「やや高い」
- ・±3ポイント未満「同様」
- ・3ポイント以下「やや低い」
- ・9ポイント以下「低い」

### 【 小学校 】

[教科を中心とした学力・学習状況]  
(全国基準)

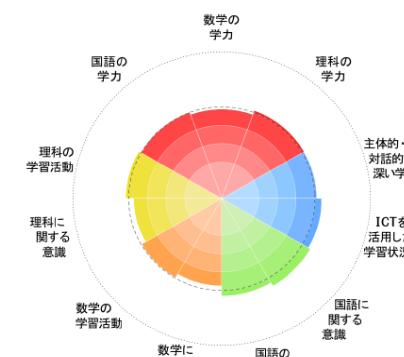


[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]  
(全国基準)

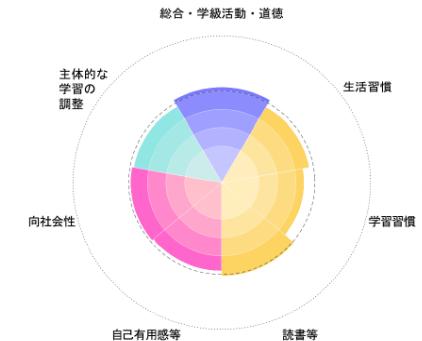


### 【 中学校 】

[教科を中心とした学力・学習状況]  
(全国基準)



[その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）]  
(全国基準)



<令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
1 国語の学力		
2 算数の学力		
3 理科の学力		
4 主目的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)	
5 ICTを活用した学習状況	(28)(29)	
6 国語に関する意識	(44)(45)(47)	
7 国語の学習活動	(46)(48)～(51)	
8 算数に関する意識	(52)(53)(55)(56)	
9 算数の学習活動	(54)(57)～(59)	
10 理科に関する意識	(60)(61)(63)～(65)	
11 理科の学習活動	(62)(66)～(70)	

<令和7年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と児童質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	児童質問 対応領域・質問番号
1 2 総合・学級活動・道徳	(40)～(43)	
1 3 生活習慣	(1)～(3)	
1 4 学習習慣	(17)(19)	
1 5 読書等	(21)～(24)	
1 6 自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)	
1 7 向社会性	(8)(9)(11)(27)	
1 8 主目的な学習の調整	(16)(36)	

<令和7年度教科を中心とした学力・学習状況の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
1 1 国語の学力		
2 2 数学の学力		
3 3 理科の学力		
4 4 主目的・対話的で深い学び	(31)～(35)(37)(39)	
5 5 ICTを活用した学習状況	(28)(29)	
6 6 国語に関する意識	(44)(45)(47)	
7 7 国語の学習活動	(46)(48)～(51)	
8 8 数学に関する意識	(52)(53)(55)(56)	
9 9 数学の学習活動	(54)(57)～(59)	
1 0 10 理科に関する意識	(60)(61)(63)～(66)	
1 1 11 理科の学習活動	(62)(67)～(70)	

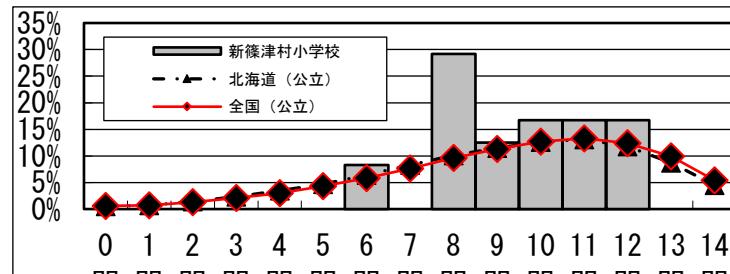
<令和7年度その他の学力・学習状況(学習習慣、自己有用感等)の領域名と生徒質問番号の対応一覧表>

領域番号	領域名	生徒質問 対応領域・質問番号
1 2 総合・学級活動・道徳	(40)～(43)	
1 3 生活習慣	(1)～(3)	
1 4 学習習慣	(17)(19)	
1 5 読書等	(21)～(24)	
1 6 自己有用感等	(5)(6)(10)(12)(14)(15)	
1 7 向社会性	(8)(9)(11)(27)	
1 8 主目的な学習の調整	(16)(36)	

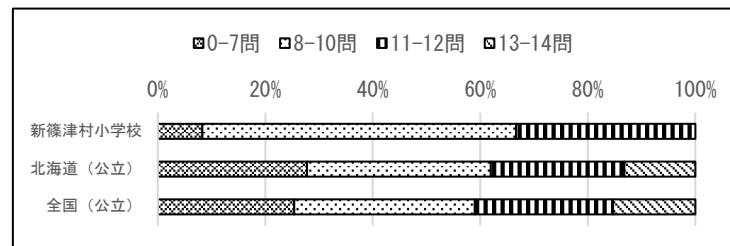
## 2 教科に関する調査の状況

### (1) 小学校

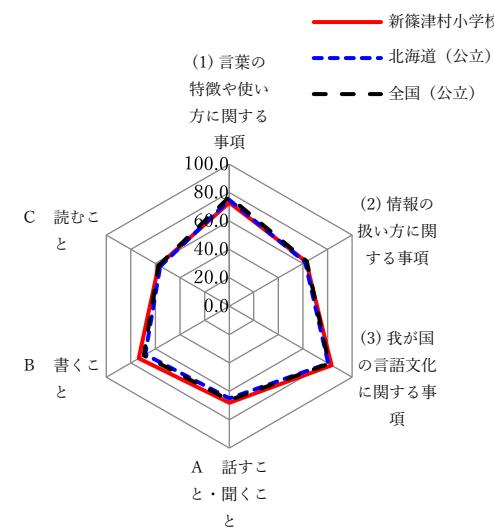
#### 【国語】 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数ごとの層分布(全国四分位)測定



#### 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



### 【分析】

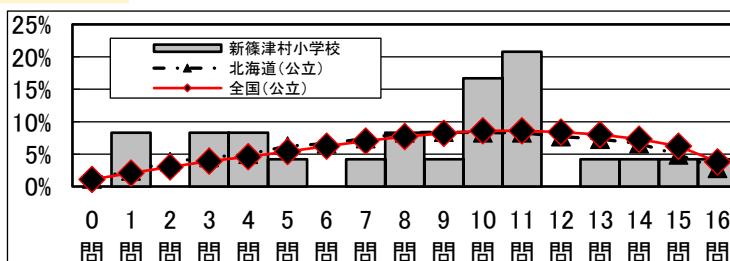
分布の散らばりは小さい。「正答数ごとの層分布測定」を見るとわかるように一番上層の児童はない。

また、低位層が少なく、中間層が非常に多い。

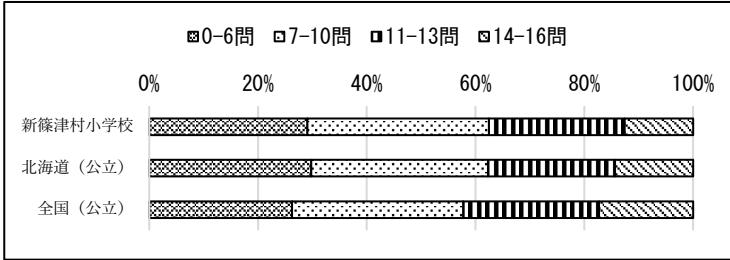
学習指導要領の内容を見ると「知識及び技能」の「我が国の言語文化に関する事項」が高くなっている。「思考力・判断力・表現力等」は高く、特に「話すこと・聞くこと」「書くこと」が高かった。

問題形式の、「記述式」に対する正答率が高く、北海道・全国に対し 6 ポイントほど上回っていることも大きな特徴である。

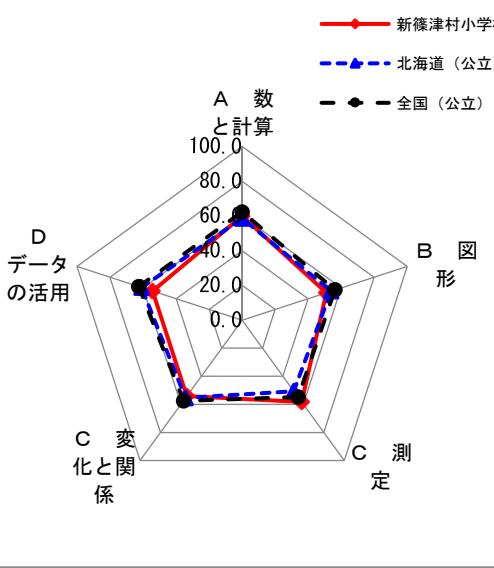
#### 【算数】 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数ごとの層分布(全国四分位)



#### 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



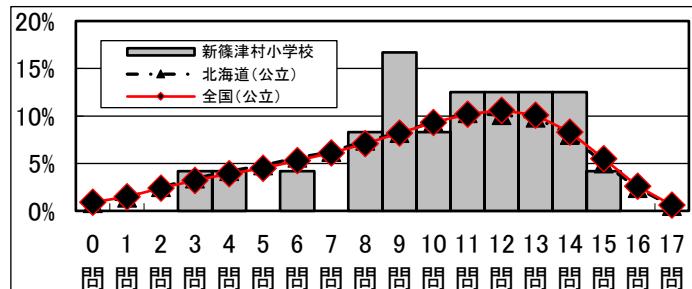
### 【分析】

算数での正答数分布は、国語とは異なり、散らばりが大きく、算数を得意にする児童と苦手な児童との差が大きいことがわかる。(ただし、ほぼ全国平均と同様)

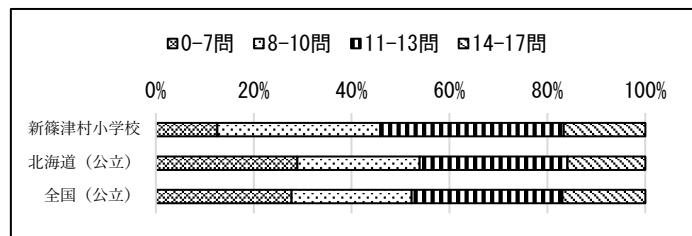
「学習指導要領の領域」から見ると、「C 測定」以外では、全国平均を下回り、特に「D データの活用」に差が見られた。

評価の観点では、国語とは逆に「思考・判断・表現」が低く、「記述式」の問題形式でもできている児童は、少なかった。

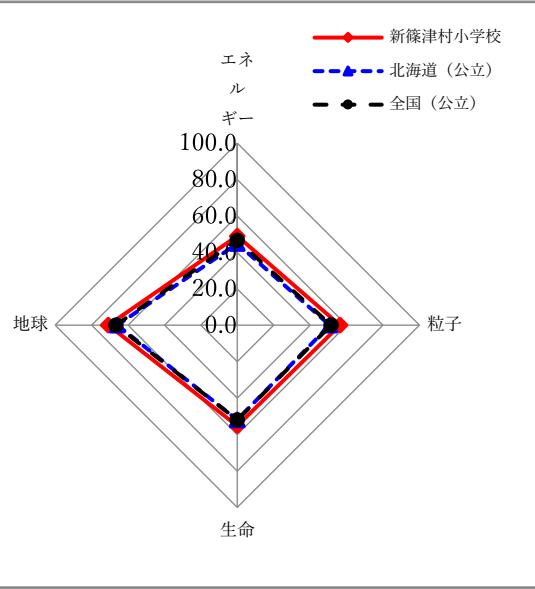
## 【理科】正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数ごとの層分布(全国四分位)



## 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



## 【分析】

理科での正答数分布は、全国平均値と比較しても、やや散らばりが小さく、下位層が少なくなっている。

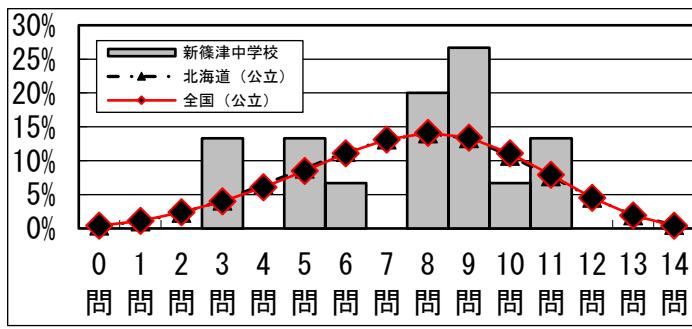
学習指導要領の区分・領域では、どの領域も全国正答率を上回っている。

評価の観点では、「知識・技能」「思考・判断表現」いずれも全国平均を上回り、特に「知識・技能」では、6ポイントも上回った。

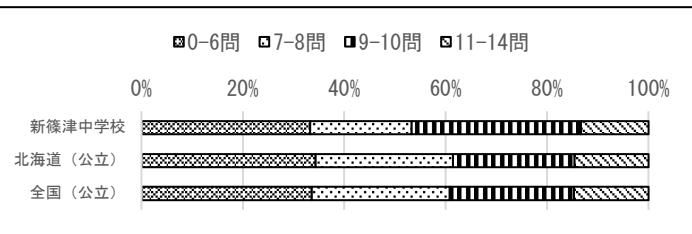
ただし「記述式」の問題形式では、若干の課題が見られた。

## (2)中学校

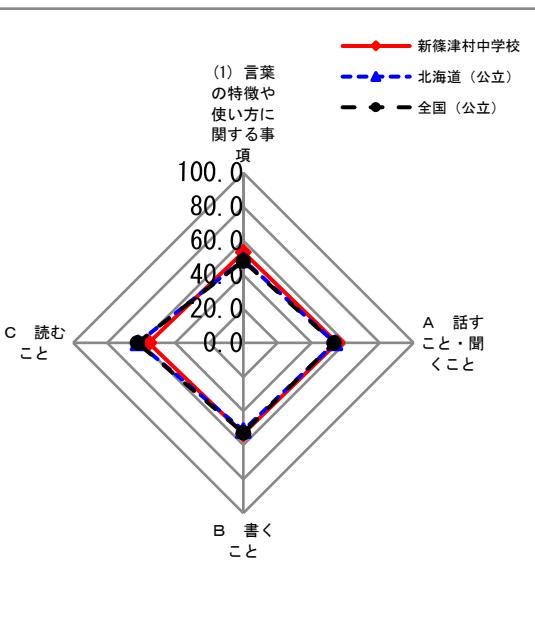
### 【国語】正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数ごとの層分布(全国四分位)



## 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



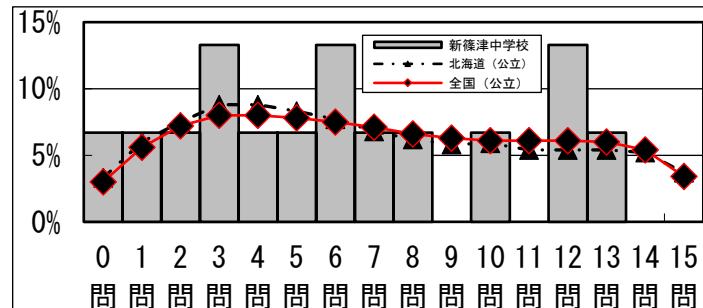
## 【分析】

正答数分布は、全国平均値なみで中央に固まっている。やや上位の層が多く、上位・下位の分布も全国平均に近くなっている。

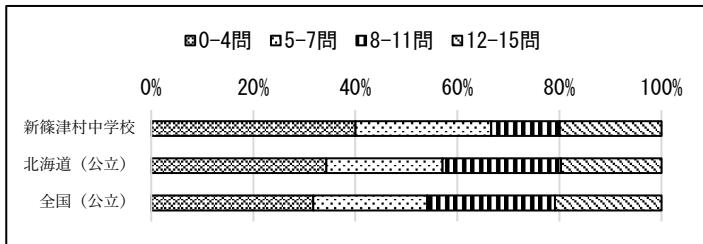
学習指導要領の区分・領域では、「知識・技能」領域は全国平均正答率よりも5ポイントほど高いが、「思考・判断表現等」の「C 読むこと」の領域が6ポイントほど下回り、弱い面が見られた。

また、「記述式」の問題形式では、課題が見られた。

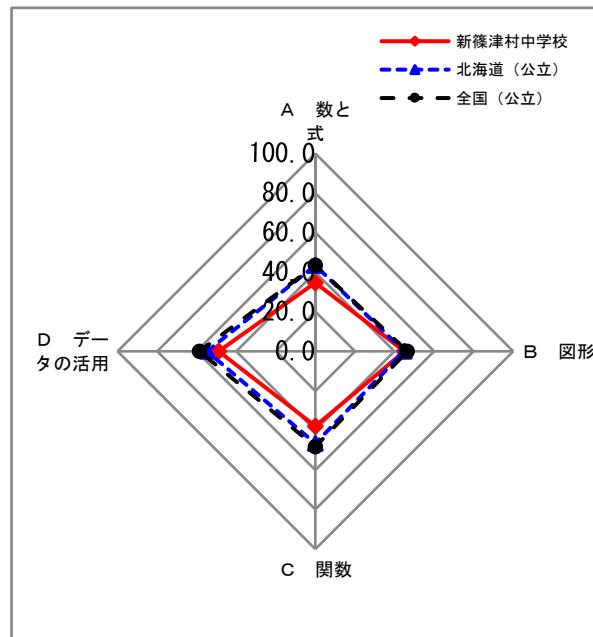
## 【 数 学 】 正答数分布グラフ(横軸:正答数 縦軸:割合)



正答数ごとの層分布(全国四分位)



## 学習指導要領の内容の平均正答率の状況



## 【 分 析 】

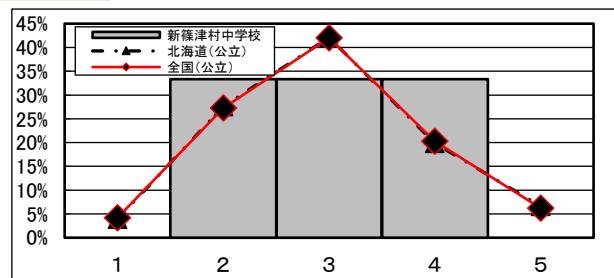
数学での正答数分布は、散らばりが大きく、全国平均値と比較して、下位層がやや多い傾向にある。上位と下位の差が大きいことから指導に工夫が必要である。

学習指導要領の区分・領域では、「B 図形」以外の領域を苦手とする生徒が多く見られる。

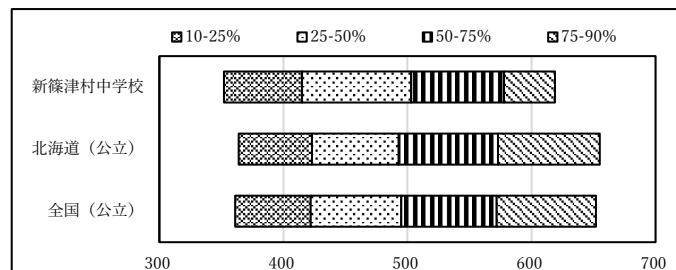
評価の観点でも、「知識・技能」「思考・判断表現」いずれも弱い面が見られる。

特に問題形式における「記述式」の問題を苦手とする傾向が見られる。

## 【 理 科 】 IRT バンド分布グラフ(横軸:IRT バンド 縦軸:割合)



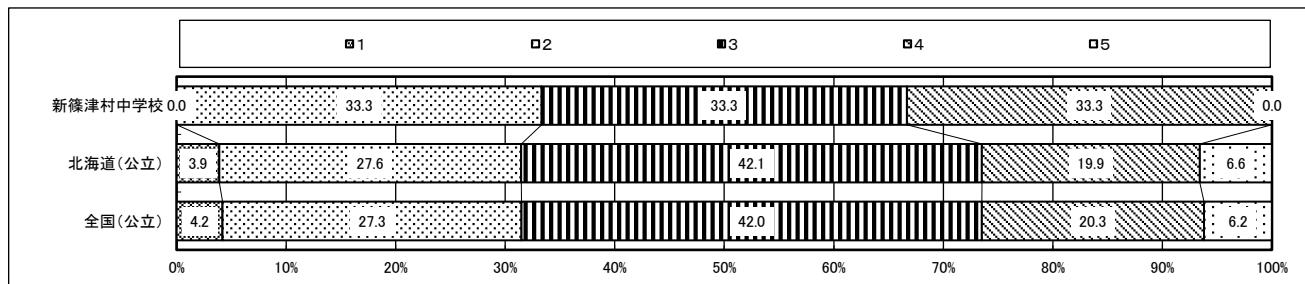
## IRT バンド分布グラフ(パーセンタイル値: 10%、25%、50%、75%、90%)



## 【 分 析 】

理科では、中央に固まる分布傾向が見られたが、全体的に下方に寄っている。

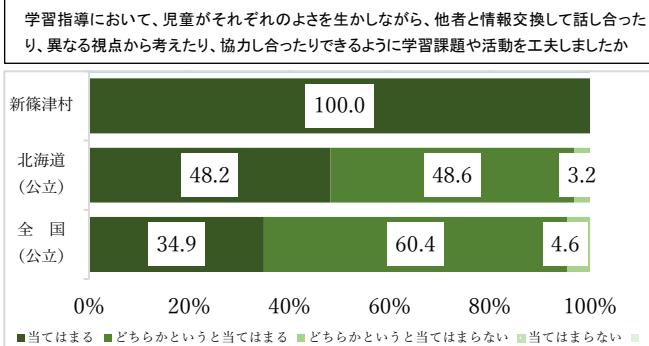
## IRT バンド分布比較



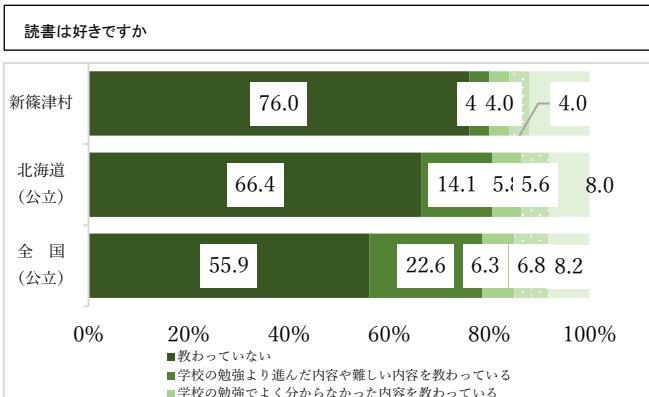
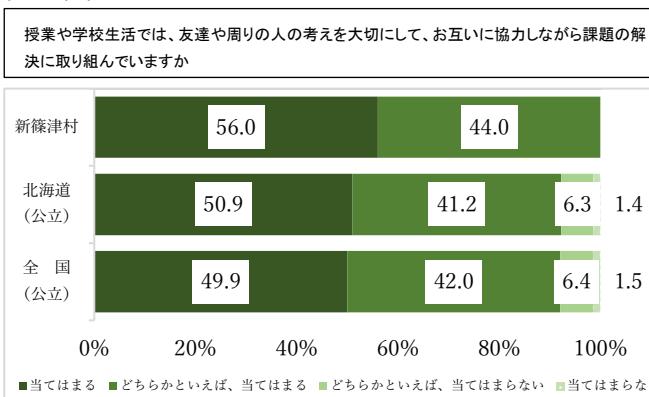
### 3 質問調査の状況

#### 小学校

##### <学校質問>

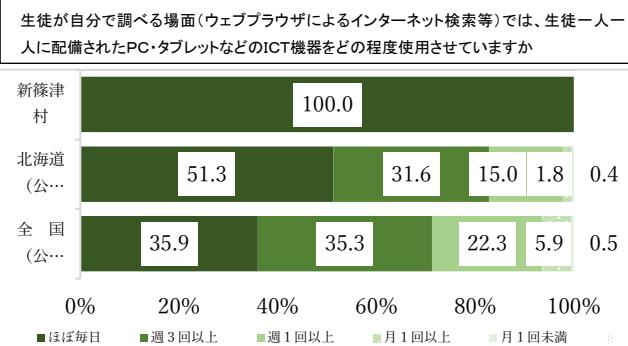


##### <児童質問>

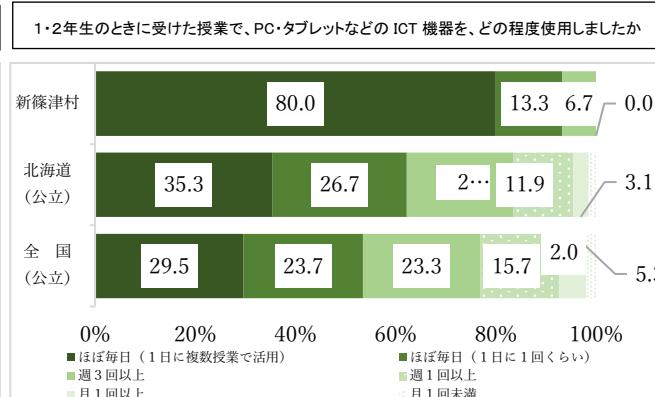
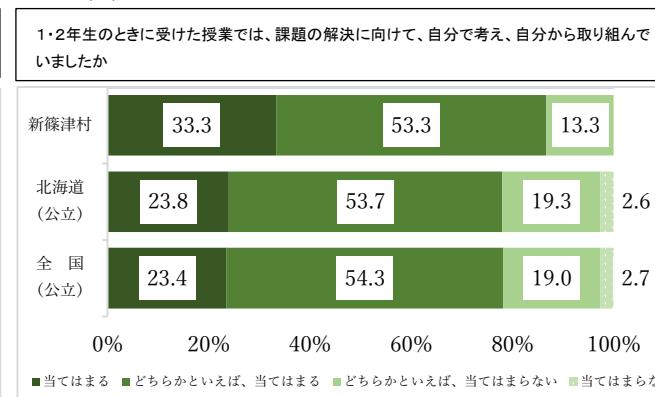


#### 中学校

##### <学校質問>



##### <生徒質問>



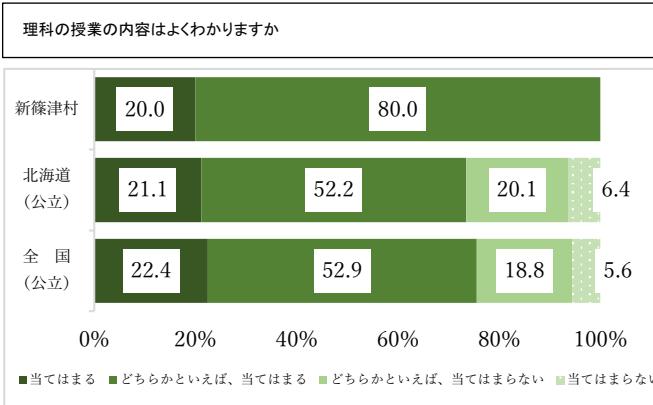
#### 4 分析

##### 【成績】

- 小学校の学習指導において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫してきた。それにより、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 「読書が好き」と答えた児童が80%おり、全国・全道の値よりも10ポイント近く高くなっている。このことは、国語の力に大きく影響しているように思われる。
- 理科においては、授業の内容を整理し、実験・観察をとりいれながら、児童にわかりやすい工夫をしている。このため、理科のポイントが全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 中学校においては、生徒が自分で調べる場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用している。これにより、授業における課題の解決に向けて、「自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 授業における自主的な姿勢の育成が「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という意欲に結びついていると考える。

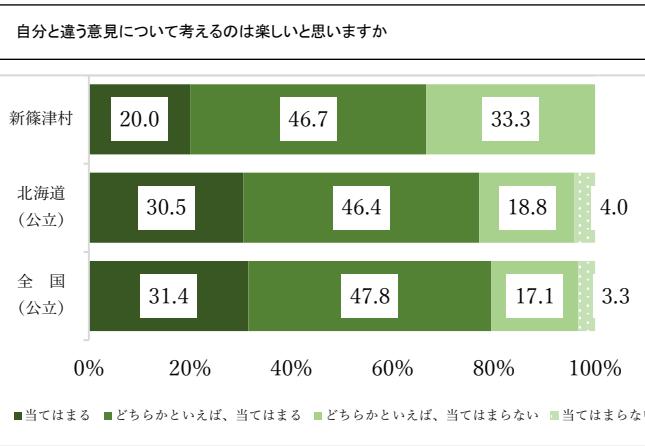
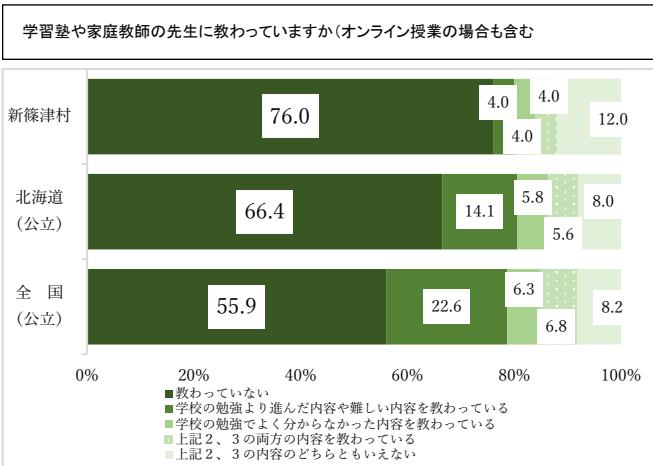
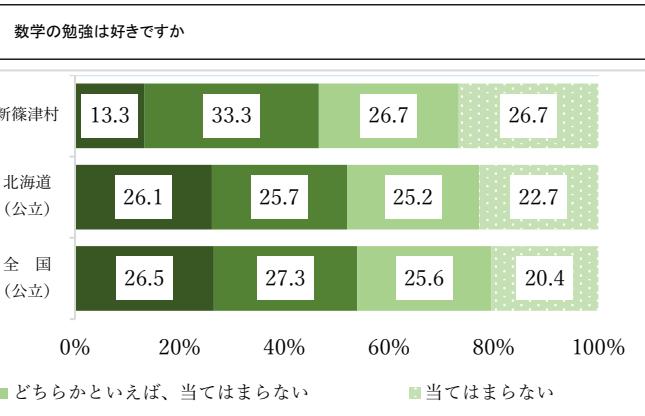
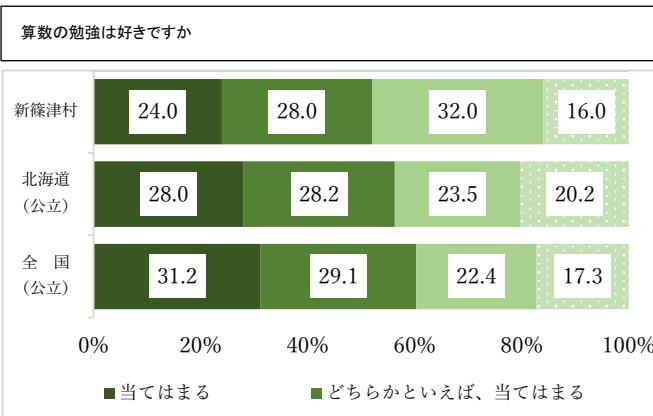
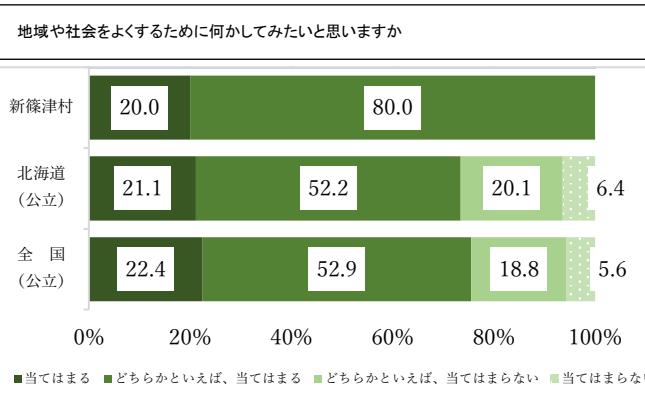
## 小学校

<学校質問>



## 中学校

<学校質問>



## 5 今後の改善策

○小中一貫教育の推進による9年間を見通した児童生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する取組

- ・教科担任制及び教員の各学校における乗り入れ授業、中学校体験活動等による児童、生徒の学校生活や学習に対する興味、関心、意欲の育成
- ・「目指す子ども像」を目指した学習指導、生徒指導の連携による児童、生徒の育成

○小中学校の組織的な児童・生徒への効果的な指導

- ・少人数指導、学習指導員の活用等、組織的で効果的な指導の推進
- ・学力向上委員会を中心とする児童、生徒の資質の分析と向上策の検討、検証、改善
- ・学校での全活動による表現活動・話し合い活動の重視による主体性、コミュニケーション能力、社会性の育成と興味、関心、意欲の喚起

○研修による主体的かつ対話的、個別最適な学び及び体験的活動を重視した授業の構築

○ICT 端末の活用を中心とした AI ドリル等による家庭学習の習慣化を図る取組の推進

○ミニテストやチャレンジテスト等を活用したスマールステップ・フィードバックによる学習内容の定着